

2025（令和 7）年 9 月 8 日  
科学技術振興機構（JST）

## 「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」 2025 年度一般公募プログラム「A・B・C コース（第 2 回）」の 交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）一般公募プログラムにおいて、2025 年度 A・B・C コース（第 2 回）の公募により採択する交流計画を決定しました。

A・B・C コースには、2025 年 4 月 22 日（火）から 7 月 4 日（金）までの公募期間に合計 253 件の申請がありました。これらの申請について、国際青少年サイエンス交流事業選考委員会（委員長：渡邊 聡 東京大学 大学院工学系研究科 教授）による審議を経て、計 74 件の採択を決定しました（別紙 1、別紙 2）。採択された交流計画における日本側機関の内訳は、大学・高等専門学校・高校が 56 校、国立研究開発法人が 1 機関、自治体が 1 機関で、対象者総数は 558 人となりました（別紙 2）。

「さくらサイエンスプログラム」のウェブサイトには、関連情報や過去の活動報告も掲載しています。

URL : <https://ssp.jst.go.jp/>

### <添付資料>

別紙 1 : 2025 年度 さくらサイエンスプログラム A・B・C コース（第 2 回）公募採択結果  
交流計画一覧

別紙 2 : 2025 年度 さくらサイエンスプログラム A・B・C コース（第 2 回）公募採択結果  
地域／コース別人数、機関別 採択件数／人数

参 考 : 2025 年度 国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）  
一般公募プログラム概要

### <お問い合わせ先>

#### <事業に関すること>

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

金子 恵美（カネコ エミ）

Tel : 03-5214-8997 Fax : 03-5214-8445

E-mail : [ssp.press@jst.go.jp](mailto:ssp.press@jst.go.jp)

#### <報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : [jstkocho@jst.go.jp](mailto:jstkocho@jst.go.jp)

### <科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちほだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

## 合計74件 受入れ機関:58機関 (28カ国・地域)

No	受入れ機関名	実施主担当者 <sup>(※)</sup>	参加国・地域	送出し機関	コース	交流計画のテーマ <sup>(※)</sup>
1	北海道大学	バディンハレ カヤカリ ハシム 電子科学研究所 助教	インド	カリカッタ大学 国立工科大学 ミソラム校 国立工科大学カリカッタ校	A	ナノ・分子科学と日本文化体験：未来の科学者のための学生訪問プログラム
2	北海道大学	岡田 夏男 大学院工学研究院 環境循環システム部門 助教	エチオピア	アクスム大学	B	責任ある鉱物調達の実現に向けたEthical Mining (倫理的鉱業) 技術の開発 ～ブロックチェーンがもたらす未来の鉱山開発～
3	北海道大学	大林 由英 医学研究院 医療政策評価学教室 助教	フィリピン スリランカ タイ ほか	デラサル大学 ペラデニヤ大学 マヒドン大学 ほか	C	Society5.0時代のグローバルヘルス・リーダー育成プログラム ～持続可能な 健康社会をデザインする人材育成ネットワーク～
4	岩手大学	袁 春紅 農学部 教授	中国	上海理工大学	A	安全・信頼・持続発展を目指す食品安全技術の中日交流
5	岩手大学	伊藤 歩 理工学部 教授	タイ	モンクット王工科大学ラートクラバン校	A	水インフラの維持管理および肥料資源供給拠点化に向けた先端的研究を体験 する
6	富士大学	關上 哲 経済学部 教授	モンゴル	モンゴル国立生命科学大学	A	モンゴルにカーボンニュートラル技術を一木質バイオマス熱利用システムの 普及に向けて～
7	東北大学	本間 香貴 農学研究科 教授	中国	武漢大学	A	日本の農業水利と灌漑栽培技術の進歩交流
8	秋田県立大学	邱 建輝 システム科学技術学部 教授	中国	長安大学	A	高分子材料加工技術
9	山形大学	横山 潤 学術研究院 (理学部主担当) 教授	インドネシア	ガジャマダ大学	C	アジアの生物多様性保全に資する先端の分子生物学技術の習得とその応用
10	茨城大学	佐藤 達雄 国際フィールド農学センター 教授	インドネシア	ガジャマダ大学 ウダヤナ大学 アイシャジョグジャカルタ大学	B	熱帯作物の病害対策における新しいアプローチ
11	筑波大学	大根田 修 国際局国際室 室長	カザフスタン	アルファラピカザフ国立大学 アスフェンディヤロフカザフ国立医科大学 ナザルバエフ大学 ほか	A	日本の健康を科学的に学ぶ
12	筑波大学	磯辺 智範 フロンティア医学学位プログラム 学位プログラム リーダー 教授	インド インドネシア ガーナ ほか	インド工科大学マドラス校 インドネシア大学 ガーナ大学 ほか	B	医学サマリアサーチプログラム プラス in 筑波大学2025 ～最先端技術による疾患メカニズムの解明～
13	宇都宮大学	西川 尚志 農学部 准教授	ケニア エチオピア	ジョモケニヤッタ農工大学 メルー科学技術大学 アディスアベバ大学	C	持続可能な農業を支えるアグリサイエンスとビジネスの理解に関する研修プ ログラム
14	群馬大学	山田 功 大学院理工学府 教授	タイ ベトナム	泰日工業大学 モンクット王工科大学北バンコク校 郵政通信技術大学	A	東南アジアの学生受入による制御・人工知能人材の育成と国際交流の促進
15	高崎健康福祉大学	松尾 仁司 健康福祉学部 医療情報学科 教授	ベトナム	ホーチミン市医科薬科大学	A	迅速・最適な災害支援の探求 ー先端テクノロジー利用による持続可能社会 の創造ー
16	千葉大学	辻 耕治 教育学部 教授	インドネシア カンボジア タイ ほか	インドネシア大学 カンボジア王立プノンベン大学 チェンマイ大学 ほか	A	環境分野における日本の科学技術を核にSDGs達成に資する人材育成を目指 すグローバル協働ワークショップ
17	明海大学	金子 潤 保健医療学部 教授	ベトナム	ホーチミン市医科薬科大学	A	歯科衛生士養成課程プログラムの体験 ー ベトナムにおける歯科衛生士・歯 科看護師の養成プログラム新設支援
18	電気通信大学	石垣 暲 国際社会実装センター 特任教授	メキシコ	メキシコ国立工科大学	B	日本発の筋電義手技術の低コスト化と現地適応および次世代人材の育成を 目指す共同研究
19	東京科学大学	齋藤 良一 大学院歯学総合研究科 教授	ガーナ	ガーナ大学	B	薬剤耐性菌感染症抑制に向けた国際共同研究の推進と基盤人材の育成
20	東京大学	ラマラジ サンカーガネシュ 大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻 特任研究員	インド	VIT大学	A	Next-Generation Biomedical Devices: Exchange and Training for Young Innovators
21	東京大学	村田 茂穂 大学院薬学系研究科 蛋白質代謝学教室 教授	中国	武漢大学	A	タンパク質とオルガネラのホメオスタシスに関する日本の研究経験に学ぶ
22	聖心女子大学	杉原 真晃 現代教養学部 教育学科 教授	ネパール	ナショナルカレッジ	A	ネパールの持続可能な開発のための科学技術体験・共同実習・交流プログラ ム
23	中央大学	原田 芳樹 理工学部 准教授	中国	上海理工大学	A	日本の先端スマート農業技術を中核とする新しい日中頭脳循環
24	東京工科大学	黒川 弘章 工学部 電気電子工学科 教授	ベトナム	ホーチミン市工業大学	A	SDGs達成のための科学技術に関する学習・体験プログラム
25	東京都市大学	神野 健哉 情報工学部 知能情報工学科 教授	台湾	大同大学	A	超スマート社会の実現に向けた基盤技術の修得と課題発見プログラム
26	東京理科大学	梅村 和夫 理学研究科 物理学専攻 教授	エジプト	アインシャムス大学	A	「水道水をそのまま飲む」日本のナノバイオテクノロジー技術を活かした 日本・エジプト水質改善共同研究の試み
27	東京理科大学	佐藤 雅彦 理学研究科 物理学専攻 准教授	インドネシア フィリピン	インドネシアイスラム大学 ミンダナオ州立大学イリガン工科大学	A	磁気測定に基づく火山災害評価の実験的体験と技術交流

No	受け入れ機関名	実施主担当者 <sup>※1)</sup>	参加国・地域	送出し機関	コース	交流計画のテーマ <sup>※2)</sup>
28	東洋大学	佐藤 友映 総合情報学部 総合情報学科 助教	トルコ	中東工科大学	B	非英語圏における英語教育理解及びEMI教育研究を基盤とした国際連携の推進
29	長岡技術科学大学	宮下 幸雄 機械系 教授	ウズベキスタン	タシケント工科大学	A	中央アジア・ウズベキスタンとのDXものづくりに関する大学院レベルでの国際協働教育研究の推進と先端科学技術研究成果の社会実装を学ぶ体験学習コース
30	新潟大学	吉川 夏樹 農学部 教授	ベトナム	カントー大学	A	穀倉地帯における農業・環境分野の国際連携のスタートアップ
31	金沢大学	シャフェイ ジャメル エディン ナノ生命科学研究所 特任助教	アルジェリア	アルジェリア国立ナノサイエンスナノテクノロジー大学院	A	日本における最先端のナノサイエンスとナノテクノロジーの体験と、高速原子間力顕微鏡の原理と応用の学習
32	北陸先端科学技術大学院大学	松見 紀佳 先端科学技術研究科 教授	インド	サティアサイ大学	C	実験と理論のインタープレイによる機能材料設計
33	山梨大学	西崎 博光 工学部 工学科 メカトロニクスコース 教授	バングラデシュ	バブナ理工科大学	A	農業AI分野における日本の先端科学技術体験交流
34	山梨大学	岡村 康弘 教育統括機構 大学教育・DX推進センター 特任准教授	バングラデシュ	クルナ大学	A	光技術とAIのシナジー創出：国際協働による光技術分野へのAI応用体験プログラム
35	朝日大学	横田 知子 保健医療学部 看護学科 准教授	南アフリカ共和国	ウェスタンケープ大学	A	南アフリカ共和国の健康寿命延伸を目的とした日本の健康支援技術の習得
36	名古屋大学	Nutthira Pakkang 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻 特任助教	タイ	マヒドン大学 チュラロンコン大学 カセサート大学 ほか	B	ソリューションプラズマ技術を用いた持続可能なバイオ炭素材料の共同研究開発
37	名城大学	丸山 隆浩 理工学部 教授	インド	インド工科大学ダンバード校	B	カーボンナノチューブのバイオテクノロジー応用に関する国際共同研究
38	立命館大学	惣田 訓 理工学部 環境都市工学科 教授	インド	インド工科大学ハイデラバード校	A	インド・日本のサステナビリティのための環境インフラ分野の技術体験と教育連携
39	立命館大学	陳 延偉 情報理工学部 教授	中国	浙江大学	B	Foundation Modelsの医用診断支援に関する共同研究と研究交流
40	京都工芸繊維大学	徐 淮中 繊維学系 准教授	中国	浙江理工大学	A	繊維材料分野における日中交流・技術交流プログラム
41	京都大学	田中 朋之 農学研究科 准教授	中国	揚州大学	A	高温環境下におけるイネ子実品質の改善に関する研究
42	大阪大学	久保 孝史 大学院理学研究科 化学専攻 教授	台湾	国立台湾師範大学 国立中山大学	A	理学研究を基盤とするイノベーション創出の体験プログラム
43	大阪大学	麻 寧緒 接合科学研究所 教授	中国	清華大学 上海交通大学	B	接合・溶接部における様々な現象、変化、変形の計算予測に取り組む
44	大阪公立大学	グイエン ソラン 大学院工学研究科 都市系専攻 教授	タイ	タマサート大学	B	騒音に配慮した都市空間デザインと環境健康のデータマッピング
45	大阪工業大学	皆川 健多郎 情報科学部 データサイエンス学科（ものづくりマネジメント研究室） 教授	モンゴル	モンゴル工業技術大学付属高専	A	持続可能な社会実現に向けたスマートものづくり学習プログラム
46	関西大学	池田 佳子 国際部 教授	インド	チェンナイ工科大学	A	知の出会いから共創へ（先端科学技術に学び、日印間で持続可能な人的ネットワークを築く国際科学技術交流）
47	関西学院大学	若林 克法 工学部 教授	インド	インド科学教育研究大学ティルパティ校	B	二次元半導体物質の電子物性に関する理論研究
48	島根大学	アンミニサシダラン シルバ 総合理工学部 地球科学科 助教	インド	コーチン科学技術大学	A	島根半島大根島・桂島を利用する地質遺産と学際教育
49	島根大学	青木 美穂 総合理工学部 教授	インド	SRM大学アーンドラ・ブラデシュ校 インド科学教育研究大学バーハンプール校 ランガバラ大学	B	整数論の未解決課題、および他分野への応用に関する研究交流
50	岡山大学	中村 俊之 学術研究院 環境生命自然科学学域 准教授	ブラジル	サンパウロ大学	A	岡山大学で最先端の食品科学に関わる科学技術体験
51	岡山大学	高橋 裕一郎 異分野基礎科学研究所 特任教授	インド	ナガランド州 ナガランド大学 MSラミア応用科学大学 ほか	A	光合成の基礎・環境適応・応用
52	岡山大学	横平 徳美 学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 学域長	インド	シスターニヴェディタ大学	B	ヘルスシステムにおけるバイオテクノロジー分野の共同研究イニシアチブ
53	広島大学	加古 まゆみ 大学院医系科学研究科 国際災害看護 准教授	ザンビア	ザンビア大学	B	災害による健康被害を最小限にするシステム構築のための国際研究交流
54	広島大学	小川 恵子 広島大学病院 漢方診療センター 教授	中国	天津中医薬大学	C	漢方医学介入による心身反応の可視化とAI診療支援モデル構築
55	山口大学	田邊 剛 医学部 医学部長・教授	バングラデシュ	ノースサウス大学 ダッカ国立医科大学 クルナ大学 ほか	A	山口大学における先端研究、世界水準の技術、及び教育制度を体験する機会を参加者に提供する。

No	受け入れ機関名	実施主担当者 <sup>※)</sup>	参加国・地域	送出し機関	コース	交流計画のテーマ <sup>※)</sup>
56	周南公立大学	田淵 啓二 人間健康科学部 看護学科 教授	インドネシア	ガネーシャ教育大学	A	日本の先端医療・遠隔医療に関わる看護師の仕事を知り、その実践看護師を育てる看護教育を体験する交流研修プログラム
57	愛媛大学	山中 亮 社会共創学部 准教授	インド	インド工科大学ハイデラバード校	B	スポーツ健康データの共同解析が育む日印のグローバルIT人材育成輩出に向けたプラットフォーム構築プロジェクト
58	九州工業大学	池野 慎也 大学院生命体工学研究科 准教授	マレーシア	マレーシアイスラム科学大学 マレーシアアトラ大学 マレーシアサイエンス大学	B	水環境保全に資する次世代バイオセンシング基盤の創成に関する国際共同研究
59	九州工業大学	福岡 康裕 大学院情報工学研究科 物理情報工学系 教授	インド 台湾	アミティ大学ノイダ校 インド工科大学カンパール校 国立台湾科技大学 ほか	C	脳型情報ハードウェア技術に関する研究
60	九州工業大学	我妻 広明 大学院生命体工学研究科 教授	インド モンゴル	インド工科大学カンパール校 インド工科大学ボンベイ校 モンゴル科学技術大学	C	人と調和するBMIロボット設計についての共同研究活動とその国際的頭脳循環
61	九州大学	清川 昌一 地球惑星科学部門 准教授	台湾	国立台湾師範大学	A	プレート境界の地質と自然災害を現場で学ぶ国際野外教育プロジェクト
62	九州大学	宮崎 康次 工学研究院 教授	中国	天津大学	A	脱炭素社会を目指す水素・エネルギー研究を通じた若手人材の国際頭脳循環
63	佐賀大学	富永 昌人 教育研究院 自然科学域理工学系 教授	インドネシア エジプト	スラバヤ工科大学 エジプト国立研究所	B	微生物電気化学システムにおけるカソードの開発
64	長崎国際大学	宇都 拓洋 薬学部 薬学科 薬品資源学研究室 教授	モンゴル	モンゴル薬科大学	A	薬用植物資源を基盤としたモンゴルとの持続的な国際研究交流の構築
65	熊本大学	嘉多 敏博 半導体・デジタル研究教育機構、情報融合学環 分野長 ／副学環長／教授	台湾	国立台湾師範大学	A	デジタル半導体時代の日台次世代人材育成交流 ～熊本半導体産業集積地域における先端技術体験プログラム～
66	宮崎大学	李 根浩 工学教育研究部 准教授	韓国	ソウル科学技術大学校	A	宮崎大学における「生命・環境・エネルギー・食」分野を軸とした地域共生社会の実現に向けた工学研究教育の体験
67	一関工業高等専門学校	富永 陽子 未来創造工学科 教授	インド	マダナバレ工科大学	A	AI×EV国際共創プロジェクト：PIUSでつなぐ未来のモビリティ
68	鹿児島工業高等専門学校	國谷 徹 一般教育科 講師	マレーシア	マレーシア工科大学 マレーシア日本国際工科院	A	情報工学分野とプロダクトデザインの融合による、未就学児童を対象としたSTEAM教育のためのものづくりについて学ぶ体験交流
69	宮城県古川黎明中学校・高等学校	今野 光穂 英語科 教諭	タイ	プリンセスチュラポーン科学高等学校サトゥン校	A	タイ王国高校生のための日本の科学技術と農業に関する体験及び共同研究推進事業
70	さいたま市立大宮北高等学校	大塚 寿 SSH推進部 教諭	台湾	台北市立松山高級中学	A	両校によるSTEAM Program「震災復興プログラム」の共同開発
71	芝浦工業大学柏中学高等学校	青木 重憲 キャリア開発部 教諭	ベトナム	FPT高等学校	A	日本の建築技術を世界へ～伝統的技術と先進的技術の融合～
72	福井工業大学附属福井高等学校	嶋崎 喬介 教務部 教育研究課 課長	タイ	シーナカリンウィロート大学ブラサーンミット付属校（中等部） ブルークバンヤスクール	A	地震や自然災害から学ぶ次世代の都市開発
73	国立研究開発法人物質・材料研究機構	仁尾 明日香 国際・広報部門 学術連携室 室長	インド	インド工科大学ハイデラバード校	A	データ駆動型材料研究を核とした日印人材交流・頭脳循環促進プログラム
74	山口県	岡 聖 産業労働部 産業人材課 主任	モンゴル ベトナム	モンゴル工業技術大学付属高専 モンゴル科学技術大学付属高専 商工短期大学 ほか	A	山口県とモンゴル・ベトナム高専との連携による実践的技術者養成・交流・人材ネットワーク構築プログラム

注) 実施主担当者の氏名・所属、交流計画のテーマは原則提案書より引用

## 2025年度 さくらサイエンスプログラム A・B・Cコース（第2回）公募採択結果

## 地域／コース別人数

(単位：人)

地域	コース	A (科学技術体験)	B (共同研究活動)	C (科学技術研修)	合計
東南アジア		105	37	13	155
南西アジア		95	33	28	156
東アジア		130	7	16	153
アフリカ		18	24	13	55
中央アジア		16			16
中東			6		6
中南米		8	9		17
合計		372	116	70	558

## 機関別 採択件数／人数

## 大学

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	北海道大学	3	28
2	岩手大学	2	14
3	富士大学	1	8
4	東北大学	1	8
5	秋田県立大学	1	5
6	山形大学	1	8
7	茨城大学	1	8
8	筑波大学	2	16
9	宇都宮大学	1	12
10	群馬大学	1	8
11	高崎健康福祉大学	1	8
12	千葉大学	1	8
13	明海大学	1	8
14	電気通信大学	1	8
15	東京科学大学	1	6
16	東京大学	2	12
17	聖心女子大学	1	8
18	中央大学	1	8
19	東京工科大学	1	8
20	東京都市大学	1	8
21	東京理科大学	2	11
22	東洋大学	1	6
23	長岡技術科学大学	1	8
24	新潟大学	1	8
25	金沢大学	1	7
26	北陸先端科学技術大学院大学	1	8
27	山梨大学	2	16
28	朝日大学	1	8
29	名古屋大学	1	8
30	名城大学	1	3
31	立命館大学	2	13
32	京都工芸繊維大学	1	5
33	京都大学	1	7
34	大阪大学	2	10
35	大阪公立大学	1	8
36	大阪工業大学	1	8
37	関西大学	1	8
38	関西学院大学	1	3
39	島根大学	2	15
40	岡山大学	3	24
41	広島大学	2	13
42	山口大学	1	8
43	周南公立大学	1	8
44	愛媛大学	1	8
45	九州工業大学	3	32
46	九州大学	2	16
47	佐賀大学	1	4
48	長崎国際大学	1	8
49	熊本大学	1	8
50	宮崎大学	1	8
	計	66	494

## 高専

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	一関工業高等専門学校	1	8
2	鹿児島工業高等専門学校	1	8
	計	2	16

## 高校

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	宮城県古川黎明中学校・高等学校	1	8
2	さいたま市立大宮北高等学校	1	8
3	芝浦工業大学柏中学高等学校	1	8
4	福井工業大学附属福井高等学校	1	8
	計	4	32

## 法人

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	国立研究開発法人物質・材料研究機構	1	8
	計	1	8

## 自治体

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	山口県	1	8
	計	1	8

採択機関数：58機関

採択件数：74件

## 2025 年度 国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム） 一般公募プログラム概要

### 1. 事業の目的

「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」は、産学官の緊密な連携により、諸外国・地域および日本の青少年の招へい・派遣を通じて科学技術分野の国際交流を行い、

- ① 科学技術・イノベーションに貢献し得る優秀な人材の養成・確保
- ② 国際的頭脳循環の促進
- ③ 日本と諸外国・地域の教育研究機関間の継続的連携・協力・交流
- ④ 科学技術外交にも資する日本と諸外国・地域との友好関係の強化

に貢献し、ひいては、日本および世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与することを目的とします。

### 2. 対象とする国・地域

原則として全ての国・地域<sup>\*</sup>を対象とします。

※1 2025 年度はアジア、アフリカ、中東、中南米、島しょ国など、148 カ国・地域が対象

※2 相補的年間交流コースはインド・アフリカ諸国のみ対象

### 3. 対象とする分野・テーマ

科学技術（自然科学、人文科学および社会科学）分野の交流全体を対象とします。

### 4. 一般公募プログラム

交流計画の目的や内容に応じて、科学技術体験コース（A コース）、共同研究活動コース（B コース）、科学技術研修コース（C コース）、相補的年間交流コース（D コース）から選択します。

#### (1) 科学技術体験コース（A コース）

日本の先端的な科学技術に触れる機会と日本の研究者・学生などとの交流体験を通して、科学技術分野における継続的な交流を促進する活動を対象とします。

- ・滞在期間：原則として上限 7 日間
- ・招へい人数（引率者を含む）：送出し機関数に関わらず 8 名以下

#### (2) 共同研究活動コース（B コース）

国際共同研究のテーマもしくは計画の策定、予備的な実験などの共同研究を開始する活動、あるいは具体的な共同研究に参加する活動を対象とします。

- ・滞在期間：原則として上限 21 日間
- ・招へい人数（引率者を含む）：送出し機関数に関わらず 8 名以下

### (3) 科学技術研修コース (C コース)

送出し国・地域のニーズあるいは地球規模課題の解決に資する科学技術に関する具体的な技術・能力の習得機会を提供する活動を対象とします。

- ・ 滞在期間：原則として上限 10 日間
- ・ 招へい人数（引率者を含む）：1 機関から招へいする場合は 8 名以下  
複数の機関から招へいする場合は 12 名以下

### (4) 相補的年間交流コース (D コース)

インド・アフリカ諸国を対象として、相互交流（派遣、招へい）を支援することにより、次世代の優秀な青少年を育成するとともに、日本とインド・アフリカ諸国の人・機関間の関係を強化して、頭脳循環に資する活動への深化と交流の継続につながる活動を対象とします。

- ・ 交流期間：最長 1 年間（派遣・招へい期間は最長 90 日／人）
- ・ 招へい・派遣人数（引率者を含む）：交流機関数に関わらず 10 名以下

## 5. 招へい者・派遣者の要件

対象は、高校生、大学生、大学院生、ポスドクター、教員など\*です。招へいの場合は原則として日本に初めて滞在する 40 歳以下の方を対象とします。相補的年間交流コースの場合は渡航経験は問いません。

※相補的年間交流コースは高校生は対象外

## 6. その他

ウェブサイトや Facebook、X、Instagram を通じて、さくらサイエンスプログラムの最新情報を発信しています。また、ウェブサイトに掲載の「活動レポート」については、過去に採択した交流計画に関し、受入れ機関や招へい国・地域、招へい者所属機関の属性（大学・高校・高専など）、コース名を入力することで簡単に報告を検索できます。ぜひご覧ください。

- ・ ウェブサイト：<https://ssp.jst.go.jp/>
- ・ Facebook：<https://www.facebook.com/sspjapan>
- ・ X：[https://x.com/ssp\\_kouhou](https://x.com/ssp_kouhou)
- ・ Instagram：[https://www.instagram.com/sakura\\_science\\_official/](https://www.instagram.com/sakura_science_official/)

以上